

作品への想い

子どもの頃、私の家は2世帯で祖父母と一緒に住んでいました。

おばあちゃん子で、良く戦争の話をしてくれたことを覚えています。

どんな話だったか、ちゃんとは覚えていないのですが、戦争っていやだな、こわいな、という感情は覚えています。そして、その影響からか、幼いながらに大切な人を突然失うことへの恐怖や不安を漠然と抱えていました。

一方で、幼いころの自分の写真をみると、笑顔な写真が多いなと感じます。たまに、喧嘩でもしたのか、ふてくされたような写真もありますが、笑顔の多い子だったように思います。それは、両親、祖父母の笑顔が多かったからだと思います。とくに父はいつもにこやかな人でした。笑顔って伝染するんですよね。

今でも、笑顔の人に触れるとうれしくなります。嫌なことがあったり心がモヤモヤしていても、なんだか暗い気持ちになっている時も、笑顔の人に触れると心に日が差したかのように、すっと明るくなる感じがします。そして、いつの間にかそれが伝染して自分も笑顔になっていることに気がきます。思えば、**なんと笑顔に救われてきたかわかりません。**

笑顔がもっと広がれば、戦争のない平和でやさしい世界になるんじゃないか、そう思っています。だから私は、作品を通して笑顔を増やしたいのです。

なぜ作品づくりをはじめたのか

子どもの頃、空想を良く描いていました。

夜、寝つきが悪かった私は、目をつぶってから空想の世界で遊ぶのが大好きでした。

どんな世界かというと、ベッドの頭側の壁に SMAP のポスターが貼ってあったのですが、そのポスターをめくるとワクワクするような空間が広がっているのです。

その空間で、魔法を使ったり大きなロボットに乗ってお散歩したり、おしゃれなお家空間を広げてみたりとすごく楽しかった覚えがあります。

空想は自由だから！

そんな経験、皆さんにもありませんか？

大人になっても、頭の中に広がる漠然としたワクワクするイメージがあって、それを形にして伝えられたら、楽しんでもらえるんじゃないか、笑顔が増えるんじゃないかなって思っていました。なので、何か生み出す仕事がしたいと思っていたのです。

数学が得意だったことや、父が金型設計の仕事をしていた影響もあり、大学では機械を学び、その後は生産設備のメーカーで機械設計の仕事につきました。

なぜ設計かというと、設計はものづくりの最初の工程だからです。

その技術をマスターすれば、その先に人を笑顔でワクワクさせるものが作り出せるのではないかと思ったからでした。

そしてそのような考えでいた頃に出会ったのが木工でした。

木工から何かを創り出したい・・・子どもの想像力を伸ばしたい

（『かちゃ』は、知恵を使って遊ぶ知育おもちゃでありながら、シルバニアファミリーのようにごっこ遊びの世界をどこまでも広げていける、木のおもちゃです。）

私は作品をつくる時、大人の皆さんには子供の頃感じたワクワク感を思い出してもらいたいなと思っています。作品の思わぬ動きや遊び心に触れたとき、ふっと笑顔になるような、肩の力が抜けるような、そんな作品をつくりたいのです。

でも子どもたちには、伝えたいことがちょっと違うことに気がきました。

これから育つ子どもたちに、私は何を伝えたいのだろう。

子どもの想像力はすごい。

発達障害の子供のスポーツ療育にアルバイトで携わっていた時に感じた事です。

1枚の紙に、子どもと一緒に絵を描き合うバトルゲームのような遊びを何時間もやったことがありました。いくらでも湧き出してくる子どもの発想力に驚いて、私も必死で食らいついていった覚えがあります。

また、ペットボトルのキャップを持ち歩いて、キャップの動きを研究？しながら遊びを創り出している（開発している！）子がいました。こうやって回すところ曲がるんだよって、遊び方や発見した特性を教えてくださいます。

雲の動きをじっと眺めたり、落ち葉がくしゃくしゃとつぶれる音に耳を澄ませたり、ドングリを小枝で叩きながら、とても楽しそうな表情を浮かべている子もいました。どんな世界

がみえているんだろう、と私はその子の世界を覗いてみたくてたまらなくなりました。

子どもが持っている想像する力は本当にすごいと思いました。

できる限りたくさん、想像する力を発揮してほしいし膨らませてほしい。そして、そのワクワクする気持ちを胸に刻み込んでほしい、大人になっても忘れないように。

今の子どもたちがそのワクワクをいつまでも持ち続け、想像を形にしていく未来になったら、きっと平和で笑顔あふれる楽しい世界に近づくんじゃないかなと思っています。

そして、それを叶えていこうとする一人ひとりもまた、笑顔で力強く生きていけるのではないかなと思っています。

だから、想像力を思う存分発揮し、膨らませていけるような、ワクワクするおもちゃを子供たちへ贈りたいと思うのです。それが、『かちゃ』です。

そして、『かちゃ』は知恵を使って遊ぶ知育おもちゃでもあります。

『かちゃ』を通して、考える力も身につけてほしいと思っています。

きっと大人になるにつれて、思う様にいかないこと、心無い言葉を浴びること、現実の壁にぶつかることが沢山あると思います。

だけど、どうやったら上手くいくのか、どうやったら乗り越えられるのか、考えることで大切なものを守ってほしいのです。

この世の中は、人の想像から形になった世界です。

だから、想像は世界を変えられるのです。

素材はなぜ木なのか

木は人の心を動かしてくれる素材だと思っています。

私自身、木工を始める前までは、木製品をじっくりみたこともなかったし、気に留めることもほとんどなかったように思います。

おもちゃ製作を始めた時も、イメージを形にしてみようと、手にとりやすいという理由から、えらんだ素材でした。

しかし、木材と向き合い続ける中で気づいたことがあります。

それは、手をかけるごとに変化していく木の表情です。

とくに仕上げのペーパーがけ。

サンドペーパーを、粗い目から細かい目へ向かって順番にかけていくのですが、目が細くなるごとに、少しずつ少しずつ、手の中で表情が変化していくことがわかるのです。そして、仕上がった作品に出会うと、本当にうっとりするような美しさに惹き込まれるのです。

ずっと見ていたくなる、触れていたくなる、そんな仕上がりに出会えます。

また、木種によって木目の表情も色合いも全然異なります。

力強い模様もあれば、やさしい模様や色合いもあって、さらに同じ木種でもみんな違う顔をしているので、私もつくっていて楽しくなるのです。

人を楽しませたり、癒したり、心を動かしてくれる素材、それが木材だと思っています。

木のおもちゃ作家 小田切 祐佳より